



11月3日(木)文化の日

出発：午前8時半

帰着：午後4時頃

見学場所

庚申塚古墳・山の神古墳(柏原)

長塚古墳(沼津市)

清水柳北1号墳(沼津市)

原分古墳(長泉町)

浅間古墳(増川)

実円寺西1号墳(三ツ沢)

富士市教育委員会 文化振興課

〒417-8601 富士市永田町1丁目100番

電話 0545-55-2375

FAX 0545-53-2739

平成二三年度

市民文化財めぐり

～富士・愛鷹山麓の古墳を訪ねて～

## ◆例言

1. 本書は、富士市教育委員会文化振興課が主催し、2011（平成23）年11月3日（木）に実施した『平成23年度 市民文化財めぐり～富士・愛鷹山麓の古墳を訪ねて～』（参加者40名）において、参加者に配布した資料の一部を編集したものです。
2. 本書では、富士市や沼津市、長泉町に所在する、墳丘や石室を見学できる古墳を中心に紹介していますが、民有地にあるものも多いので、立ち入りの際には迷惑にならないように十分注意してください。
3. 横穴式石室が開口している④原分古墳（長泉町）・⑥実円寺西1号墳（富士市）については、現在入り口が施錠されております。石室内へ入る際には古墳を管理している町・市教育委員会の許可が必要となりますので、ご注意ください。
4. 本書では紙面の都合もあり、古墳への詳しい案内図を載せておりません。詳しい位置をお知りになりたい方は、文化振興課文化財担当（0545-55-2875）、または埋蔵文化財調査室（0545-22-2095）までお問い合わせください。
5. 本書の執筆は、文化振興課職員である佐藤 祐樹が⑤とコラムを、それ以外を藤村 翔がおこない、編集を池田 知子・藤村がおこないました。
6. 本企画の実施にあたりご協力を頂きました沼津市教育委員会、長泉町教育委員会の皆様方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

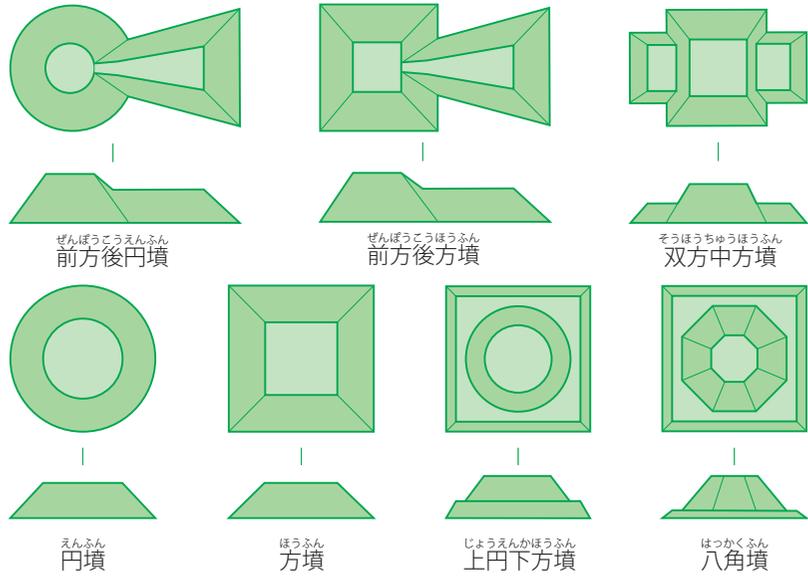
## ◆目次

◆当日の行程	1
◆古墳見学のための基礎知識	2
◆古墳の説明	
① <sup>こうしんづか やまのかみ</sup> 庚申塚古墳・山の神古墳（富士市東柏原）	4
② <sup>ながづか</sup> 長塚古墳（沼津市東沢田）	6
③ <sup>しみずやなぎきた</sup> 清水柳北1号墳（沼津市足高）	8
④ <sup>はらぶん</sup> 原分古墳（駿東郡長泉町下土狩）	10
⑤ <sup>せんげん</sup> 浅間古墳（富士市増川）	12
【Colum】浅間古墳の造られた頃の「日本」	13
⑥ <sup>じつえんじにし</sup> 実円寺西1号墳（富士市三ツ沢）	14
⑦ <sup>せんじんづか</sup> 千人塚古墳（富士市神谷）	16
⑧ <sup>いせづか</sup> 伊勢塚古墳（富士市伝法）	18
⑨ <sup>くにくぼ</sup> 国久保古墳（富士市国久保）	20

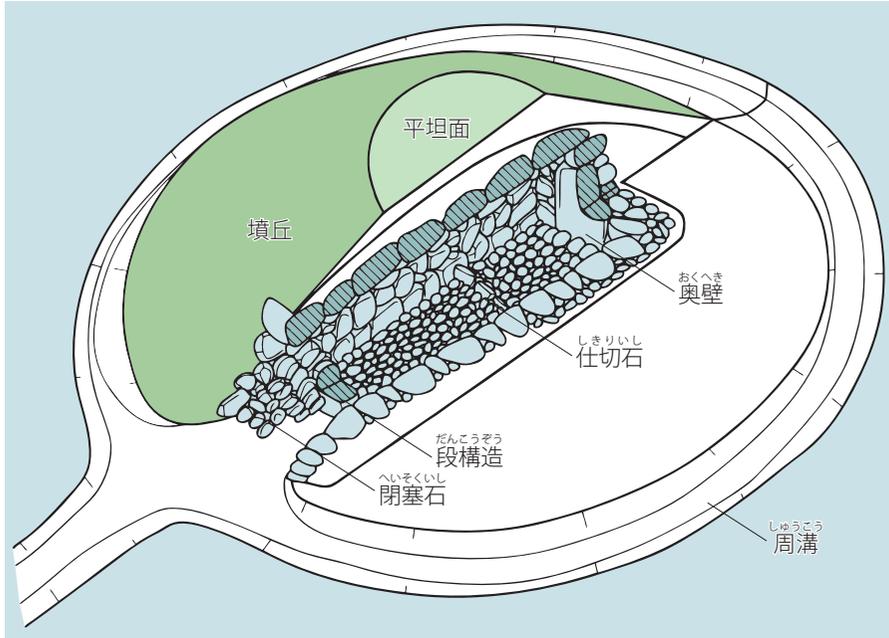
## ◆当日の行程

8：30	富士市庁舎	出発	
↓	バス移動	20分	
8：50	庚申塚古墳・山の神古墳	到着	※車内より見学
8：55		出発	
↓	バス移動	30分	
9：25	長塚古墳	到着	
10：00		出発	
↓	バス移動	10分	
10：10	愛鷹広域公園	到着	【トイレ休憩】
10：20		出発	
↓	バス移動	10分	
10：30	清水柳北1号墳	到着	
10：45		出発	
↓	バス移動	25分	
11：10	原分古墳	到着	
11：40		出発	
↓	バス移動	10分	
11：50	コミュニティ長泉	到着・文化財展示館見学	【昼食】
13：00		出発	
↓	バス移動	50分	
13：50	浅間古墳	到着・福聚禅院	【トイレ休憩】
14：40		出発	
↓	バス移動	20分	
15：00	実円寺西1号墳	到着	
15：40		出発	
↓	バス移動	20分	
16：00	富士市庁舎	到着・解散	

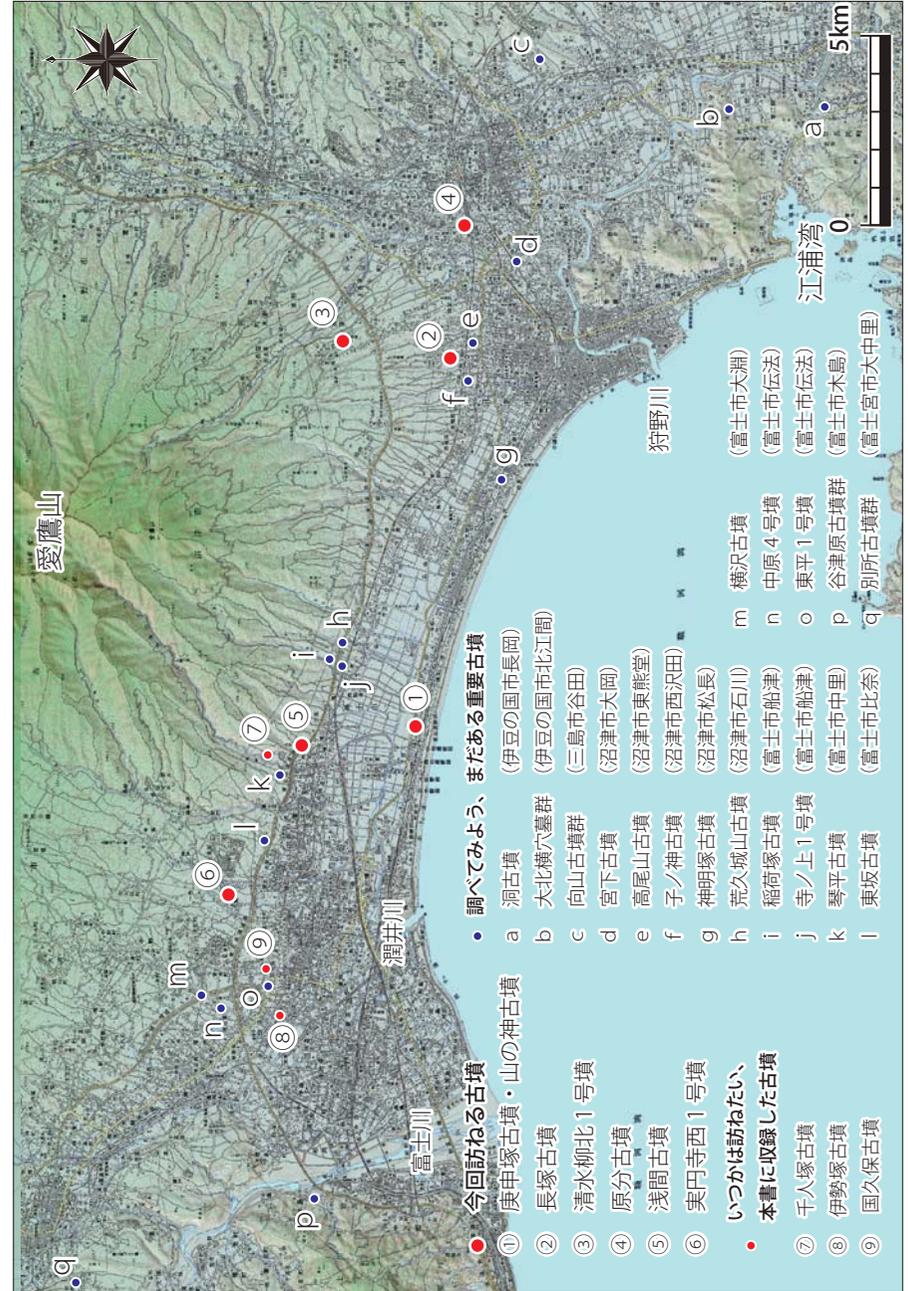
◆ 古墳見学のための基礎知識



古墳の形と種類

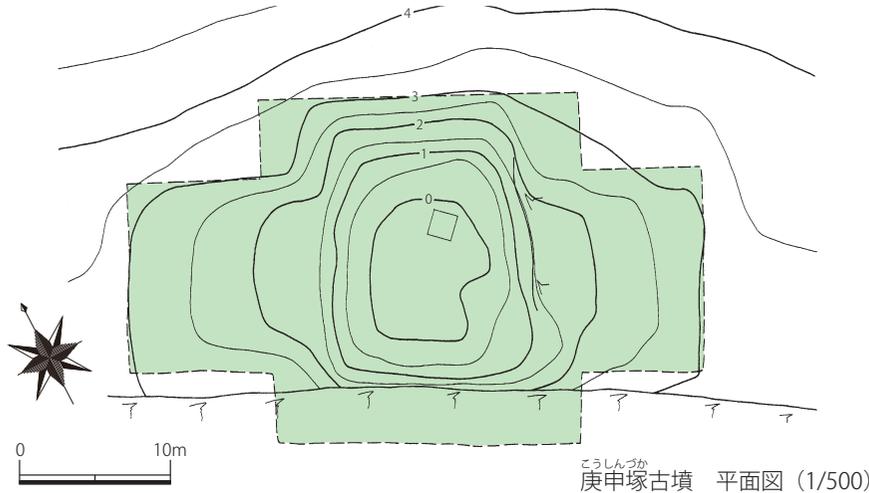


古墳の構造と名称 (横穴式石室)



富士市周辺における主要古墳の分布 (1/20,000)

① こうしんづか やまのかみ  
 庚申塚古墳・山の神古墳 (富士市東柏原新田)



庚申塚古墳 平面図 (1/500)

庚申塚古墳は、田子浦砂丘の北側斜面に造られた双方中方墳です。中方部は一辺約 20m、双方部も含めた東西長は約 40 m を測り、墳丘には葺石がみられますが、埴輪はありません。

未発掘であり、詳細な墳形や副葬品の内容にも謎が多いですが、山の神古墳に隣接することから、5 世紀から 6 世紀頃に築かれた古墳と考えられます。

山の神古墳は、庚申塚古墳から東へ 100m ほど離れて造られた、全長 41.5 m の前方後円墳です。1979 年に墳丘の北隣と東隣が発掘調査されており、幅 7m・深さ 1m 程の周溝とともに、円筒埴輪や人物埴輪の破片が発見されています。埴輪の形態から、古墳の造られた時期は 6 世紀前半と考えられ、伝法の伊勢塚古墳、沼津の長塚古墳などとともに、駿河で初めて埴輪を受容した重要な首長墳として位置づけられています。

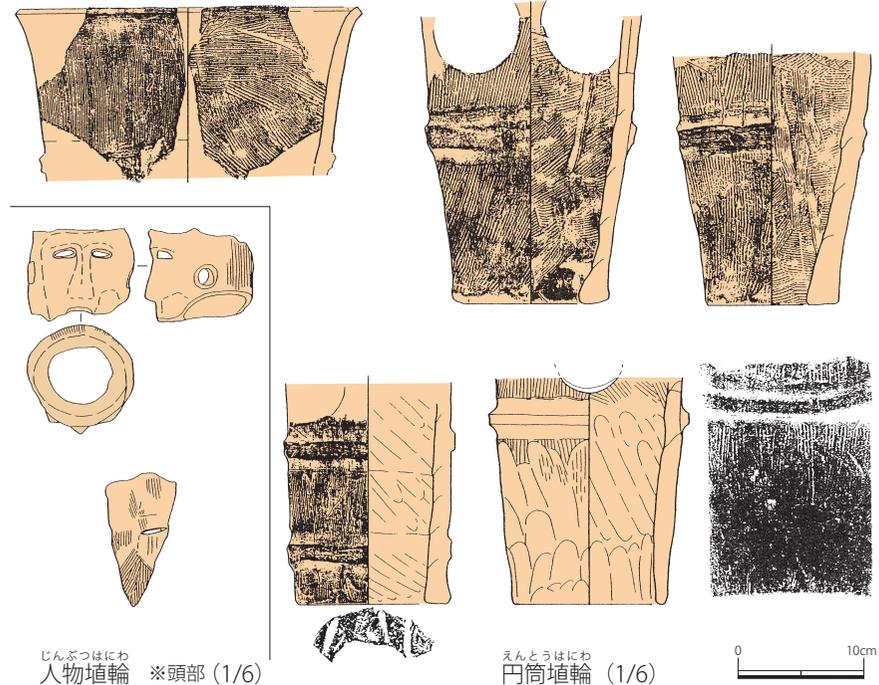
【図版の出典】

静岡県教育委員会編『静岡県の前方後円墳』資料編・総括編、静岡県文化財調査報告書 第 55 集、

2001 年



山の神古墳 平面図 (1/500)

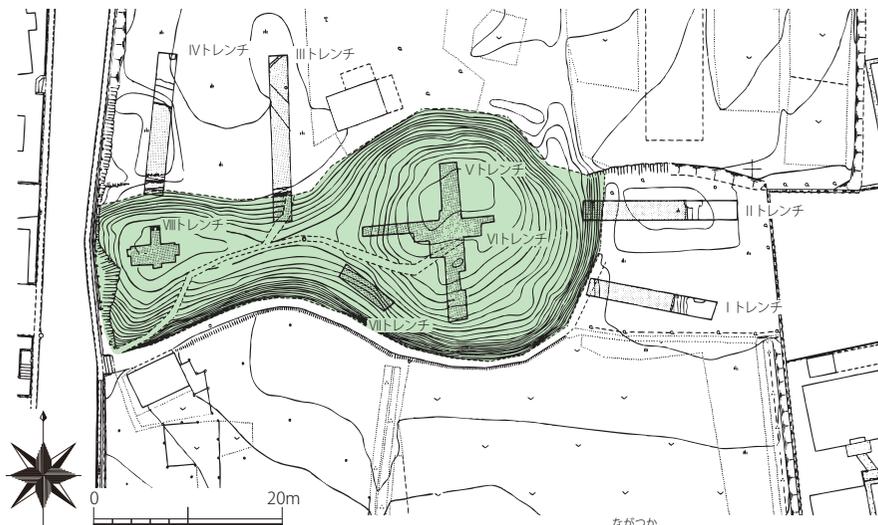


人物埴輪 ※頭部 (1/6)

円筒埴輪 (1/6)



ながつか  
② 長塚古墳 (沼津市東沢田)



ながつか  
長塚古墳 平面図 (1/800)

ながつか  
長塚古墳は、あしたか  
愛鷹山南麓から延びる尾根の緩やかな斜面に6世紀前半  
に築かれた、現存長54mの前方後円墳です。1956年、1998～1999年  
に実施された発掘調査によって、幅9～10mの周溝が廻ること、墳丘上  
に葺石はなく、埴輪列が存在したことが確認されています。埋葬施設  
は盗掘により不明瞭でしたが、後円部にて副葬品とみられる鉄銚とともに  
複数の板石片が発見されたことから、箱式石棺が埋設されていた可能性が  
あります。

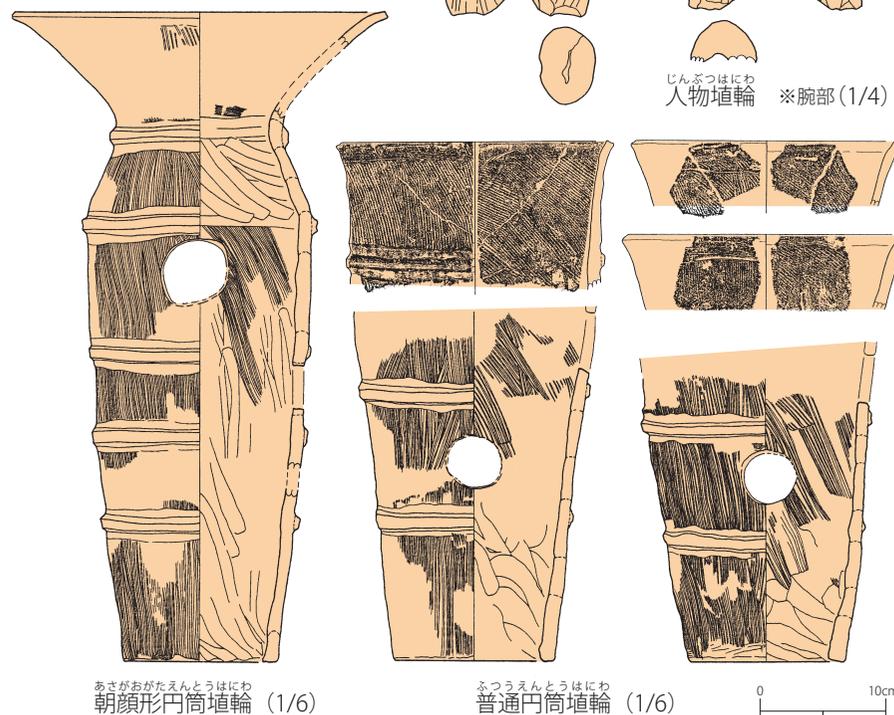
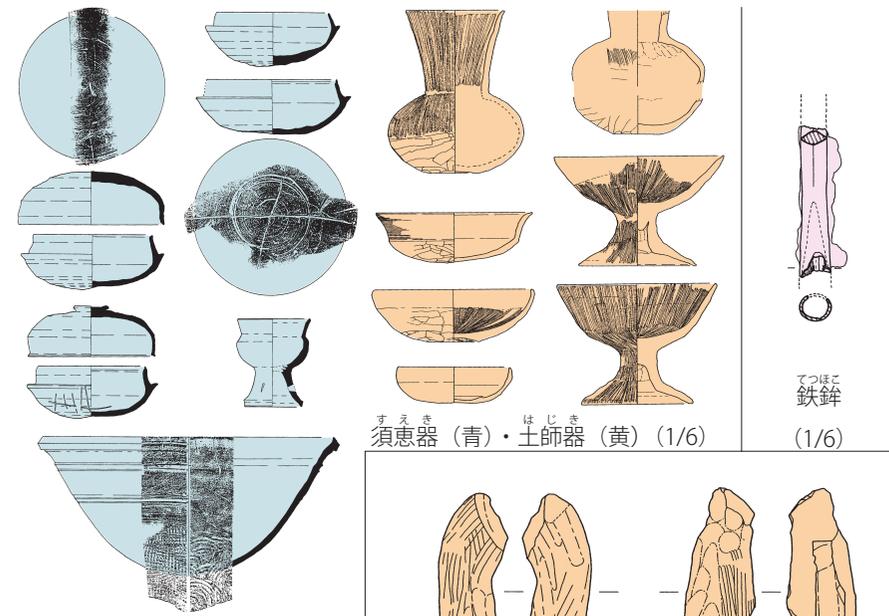
そのほかの遺物としては、墳丘上や周溝内において朝顔形円筒や  
普通円筒、人物などの埴輪が見つかるほか、くびれ部付近では  
土師器や須恵器といった土器が検出されており、墳丘上で執り行われた  
祭祀の一端を窺うことが可能です。

【図版の出典】

山本恵一ほか『長塚古墳・清水遺跡発掘調査報告書』沼津市文化財調査報告書 第68集、

沼津市教育委員会、1999年

滝沢 誠「長塚古墳」『沼津市史 資料編 考古』、沼津市、2002年



0 10cm

③ しみずやなぎきた  
清水柳北 1 号墳 (沼津市足高)



全景写真(北から)

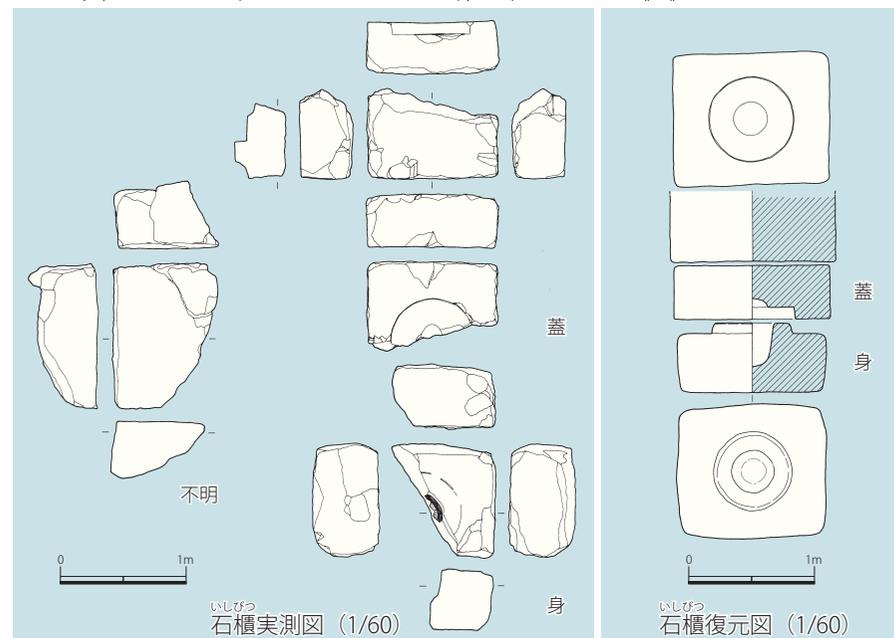
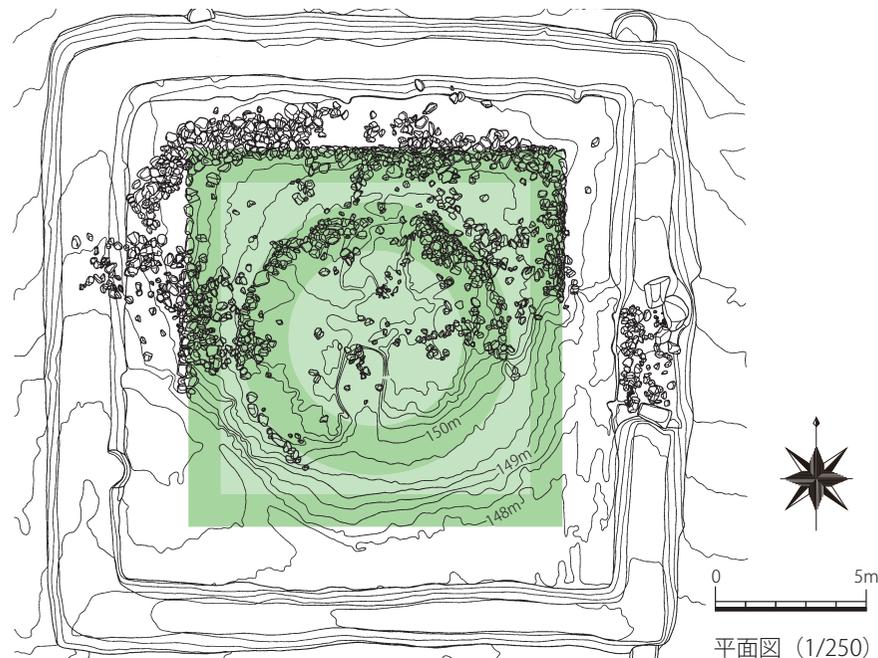
清水柳北 1 号墳は、渡戸川と芹沢川によって挟まれた尾根上に 8 世紀前半に築かれた、上円下方墳です。1985 年から 1986 年の発掘調査によって、周溝は一辺 20m ほどで正方形を呈すること、墳丘は南半部の形状が不明瞭なものの、下方部北辺が約 12.4m、上円部径が約 9m を測ることが明らかになりました。埋葬施設は江浦産の白色凝灰岩を加工した石櫃であり、火葬墓であったとみられます。

明確な上円下方墳は全国でも 4 例しか確認されておらず、当時の天皇陵に多く採用された八角墳を強く意識した墳形であること、また石櫃の形状も王権の所在する河内・大和のもの共通し、最先端の葬制である火葬を採用することから、飛鳥・奈良時代の朝廷と密接な関係をもった当地域の有力首長が埋葬されたものと考えられます。

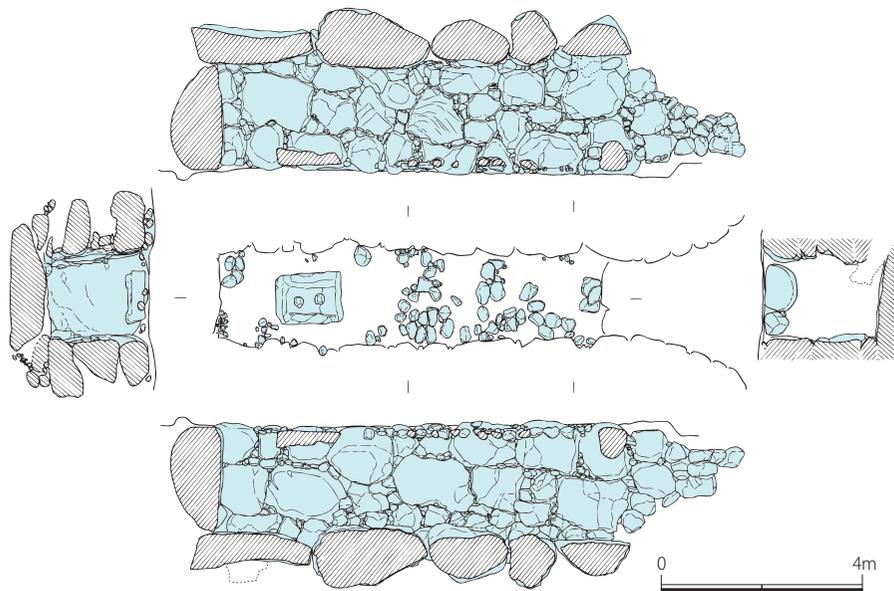
【図版の出典】

鈴木裕篤ほか『清水柳北遺跡発掘調査報告書』沼津市文化財調査報告第 48 集、

沼津市教育委員会、1990 年



④ はらぶん 原分古墳 (駿東郡長泉町下土狩)



よこあなしきせきしつ 横穴式石室展開図 (1/150)

原分古墳は、7世紀前半頃に黄瀬川の扇状地上に造られた、直径17mの円墳です。2003年から2004年にかけて行われた発掘調査によって、長さ10.4mにおよぶ長大な横穴式石室の中から、江浦産の白色凝灰岩を用いた家形石棺や木棺、人骨とともに、金銅製や鉄製の武器や馬具、多量の土器といった豪華な副葬品が発見されました。

古墳に葬られた人物は、金銅製品の保有状況からヤマト王権との緊密な結びつきを有しつつも、豊富な鉄製品の保有にみられるように東日本における武器や馬具の生産・流通にも関与した、在地の有力首長であったと考えられます。

【図版の出典】

井鍋誉之編『原分古墳』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第184集、

静岡県埋蔵文化財調査研究所、2008年



すえき ぼじき 須恵器・土師器



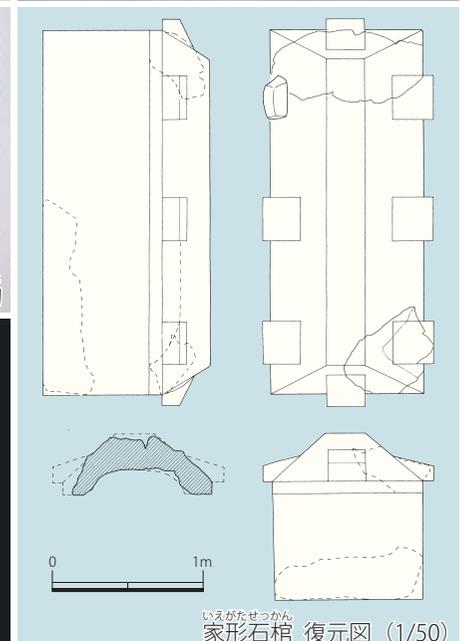
馬具



こんどうそうたち 金銅装大刀



ぎんぞうがんつかがしら 銀象眼柄頭 (X線CT画像)



いえがたせつかん 家形石棺 復元図 (1/50)

⑤ <sup>せんげん</sup>浅間古墳 (富士市増川)



平面図・断面図 (1/1,200)

<sup>せんげん</sup>浅間古墳は、4世紀後半頃に造られたと考えられる、全長90m以上、高さ7mの規模を有する静岡県内で一番大きな<sup>ぜんぽうこうほうふん</sup>前方後方墳です。丸と三角を合わせたような形をしている<sup>ぜんぽうこうほうふん</sup>前方後円墳と異なり、正方形と三角形をあわせたような形をしていることが特徴です。

「スルガノクニ」を治めていた首長のお墓である古墳からは、駿河湾までもが一望でき、今なおその権力を<sup>こじ</sup>誇示し続けています。

昭和32年7月1日には、富士市内で唯一の国指定史跡となり、地域の方々の理解と協力もあり、大切に保存されています。

【図版の出典】

静岡県教育委員会編『静岡県の前方後円墳』資料編、静岡県文化財調査報告書 第55集、

2001年 に加筆

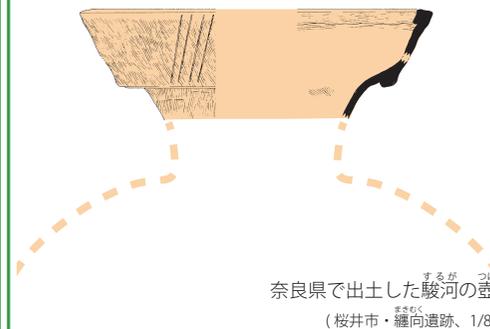
Column <sup>せんげん</sup>浅間古墳の造られた頃の「日本」

<sup>せんげん</sup>浅間古墳が造られた頃、「日本」は古墳時代（西暦3世紀中頃から6世紀）という新たな時代を迎えました。この頃、奈良の地以外にも、おきな<sup>ぜんぽうこうほうふん</sup>前方後円墳が次々と造られ、「ヤマト王権」の力が列島各地に広がりを見せ始めました。それは<sup>りつりょう</sup>律令国家に向けた、激動の時代の幕開けでもあったのです。

<sup>するが</sup>駿河の地にも、各地から多くの人や情報が入り込み、また、出て行きました。例えば、<sup>するが</sup>駿河で作られた土器が、西は奈良県まで、東は福島県付近まで運ばれており、活発な交流があったことを物語っています。

当時の移動手段は、今日のように車やバスで移動するのとは異なり、歩いたり、船で海上を移動したりという危険を伴うものでした。しかし、新たな時代を迎えた頃の人々は、フロンティア精神にあふれ、積極的に<sup>こうりゅうもう</sup>新たな交流網を築いていきました。

<sup>せんげん</sup>浅間古墳をはじめ、同じ頃の古墳が、眺めの良い高台に立地し、さらに「<sup>ふきいし</sup>葺石」と呼ばれる<sup>こぶしだい</sup>拳大の石で<sup>こうごう</sup>神々しく見えるように造られていました。このことから、古墳は権力を<sup>こじ</sup>誇示するためのお墓であるのと同時に、海上を移動するための目印、灯台のような性格も持ち合わせていたと考えることも出来ます。



奈良県で出土した<sup>するが</sup>駿河の壺  
(桜井市・纏向遺跡、1/8)



<sup>ふねがたはにわ</sup>舟形埴輪  
(大阪市平野区・長原高廻り2号墳)

⑥ じつえんじにし  
実円寺西 1 号墳 (富士市三ツ沢)



よこあなしきせきしつ  
横穴式石室内部の状況 (奥壁側)

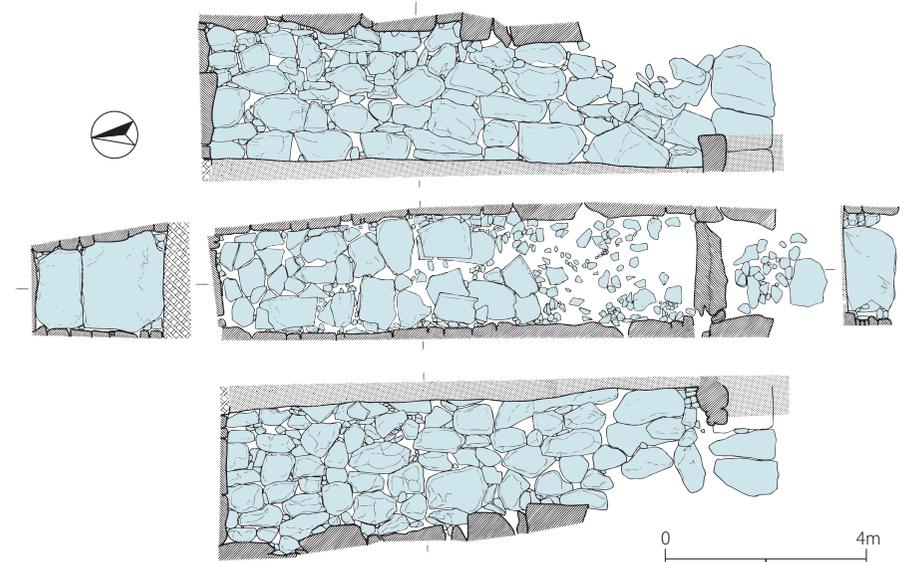
じつえんじにし  
実円寺西 1 号墳は、富士山南麓から延びる丘陵の南端部に 7 世紀前半頃に築かれた、直径約 17.5m の円墳です。埋葬施設は全長 11.1m、高さ 2.5m を測る横穴式石室であり、駿河でも有数の大型石室墳といえます。遺物については土器片が発掘されたのみですが、その石室規模を考慮すれば、質・量ともに豊かな品々が副葬されていたものと推定されます。

よこあなしきせきしつ  
横穴式石室の形態は、平面形が長方形となる「無袖式」であり、入り口部分には、板状石材 (框石) によって段が設けられています。これらの要素は駿河東部地域で造られた横穴式石室の大きな特徴でもあり、この古墳の被葬者がこの地に根差した有力首長であったことが窺われます。

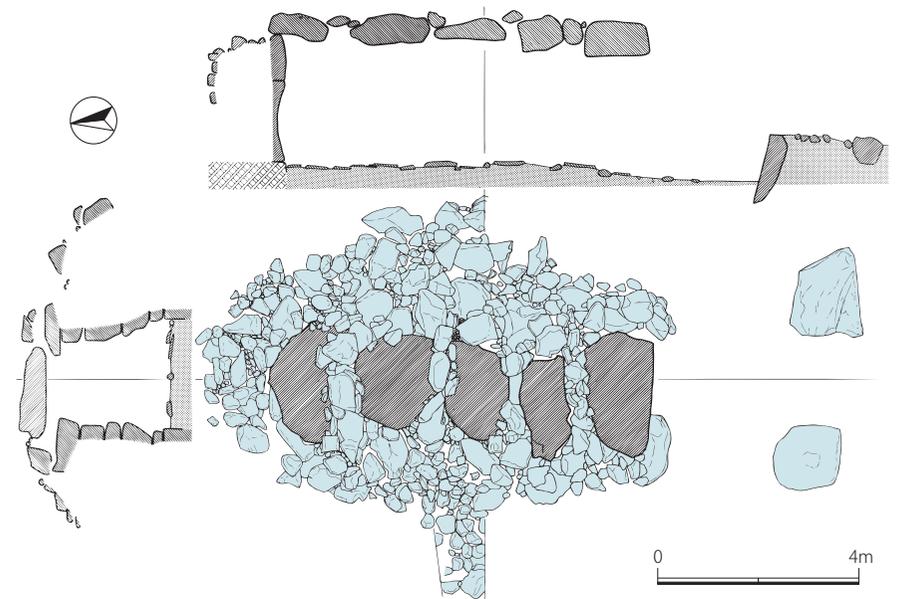
【図版の出典】

平林将信ほか『富士市指定遺跡 実円寺西古墳保存修理工事報告書』、富士市教育委員会、

1986 年 ※写真は平成 23 年 10 月現在の石室内の様子



よこあなしきせきしつ  
横穴式石室展開図 (1/150)



石室天井石検出状況図 (1/150)

⑦ <sup>せんになづか</sup>千人塚古墳 (富士市神谷)



<sup>よこあなしきせきしつ</sup>横穴式石室内部の状況 (奥壁側)



<sup>よこあなしきせきしつ</sup>横穴式石室内部の状況 (入口側)

<sup>せんになづか</sup>千人塚古墳は、<sup>すどがわ</sup>須津川東岸の緩やかな斜面に7世紀前半から中頃に築かれた、直径約20mの<sup>えんふん</sup>円墳です。2002年に実施した発掘調査によって、全長11.3m、高さ2.3mを測る大型の<sup>よこあなしきせきしつ</sup>横穴式石室から、<sup>こんどうせい</sup>金銅製の優品を含んだ<sup>ぼぐ</sup>武器や<sup>すえき</sup>馬具、<sup>ほこしせつかん</sup>須恵器、箱式石棺などが発見されました。

<sup>せんになづか</sup>千人塚古墳が築かれた<sup>すどがわ</sup>須津川東岸には、かつては120基以上の小規模な古墳が密集していたようであり、現在ではそれらを総称して、<sup>すど</sup>須津古墳群と呼んでいます。<sup>せんになづか</sup>千人塚古墳の被葬者は、古墳群を築いた大集団のなかでも特に優れたリーダー格の存在であったことが、石室規模や<sup>ふくそうひん</sup>副葬品内容から<sup>うかが</sup>窺われます。

【参考文献】

渡井義彦『富士市の埋蔵文化財(古墳編)』、富士市教育委員会、1988年

※ 掲載写真は富士市教育委員会所蔵のもの



主要出土遺物

いせづか  
⑧ 伊勢塚古墳 (富士市伝法)



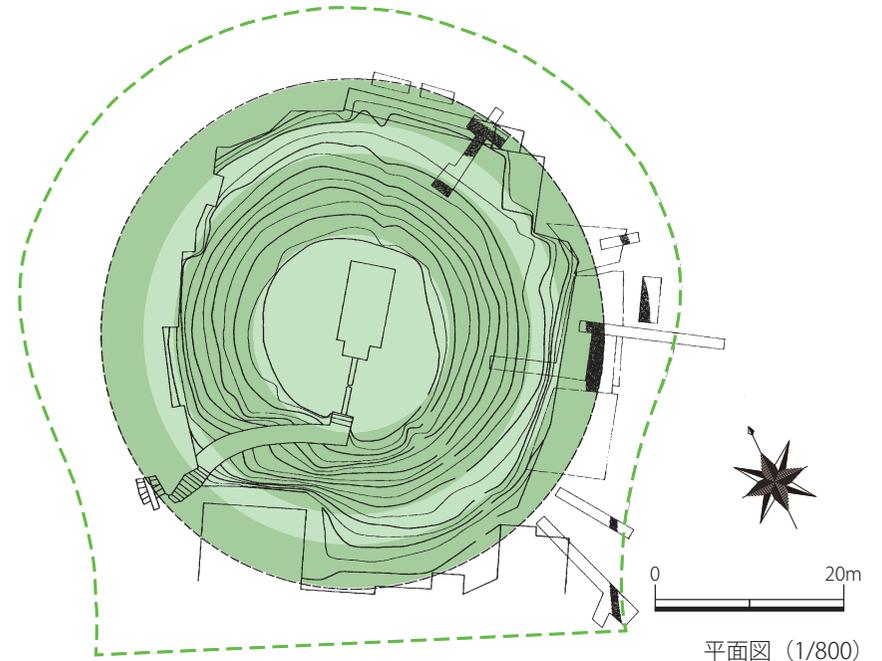
全景写真(南から)

伊勢塚古墳は、富士山南麓に延びる大淵扇状地の最南端に、6世紀初頭前後に築かれた、直径54mの円墳です。これまでの発掘調査によって、墳丘は葺石を有し、途中に平坦面(テラス)を設けた二段築成であること、また幅7~8mの周溝が存在すること、そして埴輪が存在することになっています。なお、部分的な調査のため不明確ながらも、周溝の形状が馬蹄形となる可能性も指摘されています。

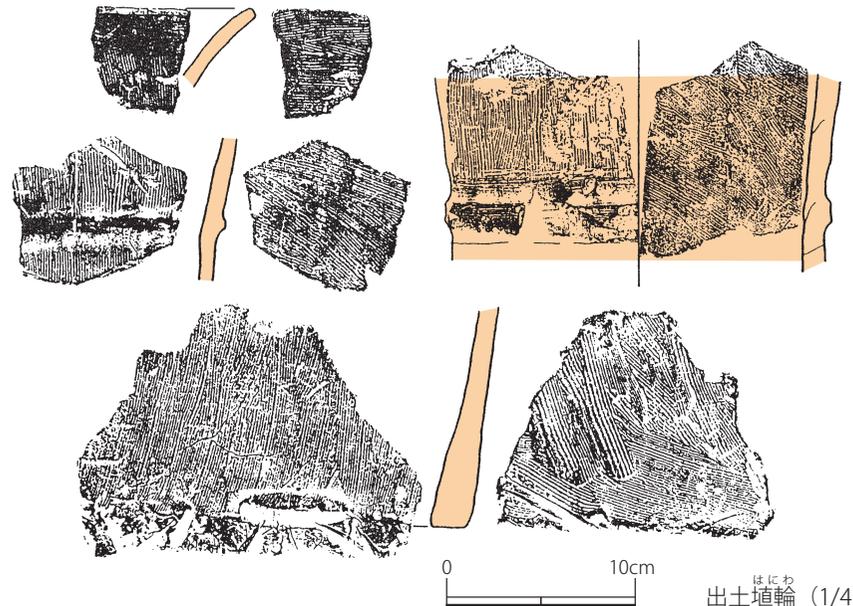
潤井川流域は、伊勢塚古墳以前に大規模な首長墳が築かれなかった地域でもあり、その被葬者は潤井川下流域の開発や海上交易等によって新たに台頭した、新興の大首長であったと考えられます。

【図版の出典】

静岡県教育委員会編『静岡県の前方後円墳』資料編・総括編、静岡県文化財調査報告書 第55集、2001年



平面図 (1/800)



出土埴輪 (1/4)

くにくぼ  
⑨ 国久保古墳 (富士市国久保)



発見された横穴式石室 (壁の上部は失われていた)

くにくぼ  
国久保古墳は、富士山南麓に延びる大淵扇状地の南端に、7世紀前半から中頃に築かれた、横穴式石室を有する小型の古墳です。2001年の発掘調査によって住宅地の中から新たに発見された古墳でしたが、全長4.7mの横穴式石室内部より、銀装大刀の破片や馬具、原分古墳を凌ぐ多量の鉄鏃(矢じり)、雁木玉、鉄鐸といった、ユニークに富んだ副葬品の数々が発見されました。

なかでも一際目を引く雁木玉は、同種のもの全国でも8例しか見つかっていない希少なガラス玉であり、海外からの舶載品の可能性があります。また鉄鐸も鉄器生産に関わる渡来系信仰との関連が指摘されていることから、多量の鉄鏃を保有する国久保古墳の被葬者もそうした鉄器工人集団を統括するような人物であったと考えられます。

【図版の出典】

藤村 翔・若林美希『平成13年度富士市内遺跡・伝法 国久保古墳 埋蔵文化財発掘調査報告書』

富士市教育委員会、2011年



主要出土遺物



雁木玉



鉄鐸

